

『体を動かして遊ぶ活動』 取り組み例

学校法人竹早学園 つつじがおか幼稚園

園長 加藤 正克

1 はじめに

本園は、京王線「つつじヶ丘駅」の南に位置し、開園47年の私立幼稚園である。年少3、年中と年長各2クラスの計7クラス、各組15～20人前後の編成である。園長以外は、学校法人竹早学園竹早教員保育士養成所出身の教員で組織されている。

はじめに、幼稚園教育要領に示された「ねらい及び内容」に沿って教育活動を計画し展開しており、特別な体育活動に力を入れている園ではないことをお断りしておく。

幼稚園教育要領解説の「健康」領域に示された「十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること」を通して、子どもたちが生涯スポーツに向けた発達の段階に合った力を確実に身に付けていくことを念頭に置き、日々の体育的な運動遊びを充実させていくことに心掛けている。

2 年間指導計画基底

園児の発達の節目を考慮して3年間を15期に分け、以下のように作成している。

	4月・5月 I 期	6月・7月 II 期	9月・10月 III 期	11月・12月 IV 期	1月・2月・3月 V 期
三歳	新しい環境への対応 心の安定 集団生活への第1歩 生活の仕方	生活の仕方 友達への興味 遊びへの興味	集団行動 遊びの楽しさ 友達のかかわり	友達のかかわり 言語表現の向上 自然への関心	生活習慣の自立 友達関係の広がり 遊びの充実
	4月・5月 VI 期	6月・7月 VII 期	9月・10月 VIII 期	11月・12月 IX 期	1月・2月・3月 X 期
四歳	心の安定 新しい環境への興味 生活の仕方	生活の仕方 友達のかかわり 自己主張 遊びの習得	友達のかかわり 遊びの楽しさ 体位、体力の向上 集団活動	自律心の芽生え 自己表現の向上 自然や社会への関心	集団生活の自立 意欲の向上 遊びの広がり 巧緻性
	4月・5月 XI 期	6月・7月 XII 期	9月・10月 XIII 期	11月・12月 XIV 期	1月・2月・3月 XV 期
五歳	友達関係の深まり 年長児としての喜びと自覚 自律心、責任感	友達関係の深まり 自然への興味・関心の高まり 自己発揮 遊びの深まり	言語能力の向上 体位、体力の向上 グループ活動 知的関心 自己課題と挑戦意欲	表現意欲 知的理解 協力、信頼 目的的行動 学級としての仲間意識の高まり	友達との共通課題 知的理解 自主、自立 表現力 入学への喜びと自覚

これを基に、各学年の年間指導計画を作成しているが、ここでは年少の運動遊びについての「ねらい」と「内容」から抜粋したものを示す。

期	ねらい	内容
4・5月	好きな遊びを見つけて楽しむ	好きな遊びや場を見つけて遊ぶ
6・7月	好きな遊びの中で、先生や友達と触れ合って遊ぶ 戸外で体を動かし解放感を味わう	先生や友達のしていることに興味・関心を持ち、まねをしたり一緒に遊んだりする 水、砂、泥などを使って楽しく遊ぶ
9・10月	友達と関わって遊ぶ 戸外で体を十分に動かす	友達と同じ場所・同じ道具を使って遊び、楽しさを味わう リズムカルに体を動かすことを楽しむ

		簡単な運動遊びに取り組む
11・12月	好きな遊びの中で友達との関わりを深める	イメージを自分なりの言葉で表現し、数人の仲間と遊びを楽しむ
1～3月	遊びの中でいろいろな友達と関わる 寒さに負けず元気に遊ぶ	簡単なルールのある遊びを楽しみながら、友達関係を広げていく 戸外で体を十分に動かし遊びを楽しむ

3 具体的な活動

日々の活動は、一斉活動と自由活動に分かれるが、一日の中で「みんなで」・「グループで」・「個人で」体を思い切り動かす時間を確保するように努めている。

また、多くの園が導入している体育指導講師による指導を、本園でも週1日設定している。年長・年中は年間35回程度、年少は3学期に体験的に実施をしている。

どの学年学級も担任が共に指導にあたり、一人一人の個性に応じた援助に心掛け、楽しみながら運動遊びを行えるようにしている。また、その時間で体験した運動は、「できる・よりよくできる」ようになるために、各クラスごとに日常的に繰り返し取り組めるような場を設定し、園児が自ら挑戦したくなるような雰囲気作りをしている。

講師による正課カリキュラムの学年ごと学期ごとのねらいは、次の通りである。

(1) 年中クラス…運動会の団体種目は「パラバルーン」

1学期 いろいろな運動を通して、基礎体力を養う

2学期 それぞれの種目に応じた動きを経験させる

3学期 経験した動きを身に付け、自信を持たせ運動への意欲を高める

(2) 年長クラス…運動会の団体種目は「組み立て体操」

1学期 目標を立て、種目に対する意欲を高める

2学期 目標に向かって最後まで努力する態度を育てる

3学期 積極的な姿勢や協力する姿勢を促し、自立の心を養う

※ 内容は、基本の運動（走る・跳ぶ・ころがる・投げる）、平均台（様々な歩行）、マット（一人で前後左右のころがり・二人組で）、跳び箱（跳び乗り・跳び降り・開脚跳び）、鉄棒（ぶら下がり・前回り降り・逆上がり）、単縄長縄跳び（前後跳び・開脚跳び・あや跳び）、ボール（投げ・キャッチ・中当てドッジボール）、プール（水慣れ・ワニ歩き・歩行・潜りっこ・バタ足）など、個人やグループの運動を発達段階を考慮しながら、季節や行事に合わせて組み合わせるように工夫を図っている。

4 まとめ

画一斉の体育講師の指導より、自由に思い切り遊ばせたほうが、体力・運動能力が高まるという意見もある。しかしながら、計画的に運動遊びを十分に味わわせること、すなわち運動経験をたくさんさせることは、小学校への接続という観点からも意味のあることだと考えている。いずれにしても、園児が体を動かすことが好き・楽しい・もっとやりたいと思える環境づくりを整えることが肝要である。生涯スポーツへの基礎作りという視点からも、多様な運動遊びに親しませ、挑戦・克服したり、約束を守ったり、仲間と協力したりして頑張る態度や意欲をもたせたいと考えている。